

スタートアップのお客さまを紹介します！

会社概要

会社名：株式会社ロボティクスセーリングラボ
 代表取締役：二瓶 泰範氏
(大阪公立大学 工学研究科 准教授/養殖場高度化推進研究センター(CAINES)センター長)
 所在地：大阪府松原市天美我堂2丁目468-1(D号)
 設立：令和5年4月
 従業員数：7人
 事業内容：ロボットの企画・研究・開発・製造・販売等
 TEL：080-2093-8981
 Webサイト：<https://www.robosailing.com>



<Webサイト>



<Instagram>



Robotics Sailing Lab.

株式会社ロボティクスセーリングラボ

無人で餌やり!? 「ロボット漁船」が代行します!!

当社は、「ロボット漁船」の研究・開発等を行っている大阪公立大学発のベンチャー企業です。「ロボット漁船」とは、水産養殖場における自動化機械で、港での餌積み、生簀(いけす)への航行、生簀の給餌機(きゅうじき)への補給までの工程を自動で行うことができます。令和7年下期の販売開始をめざし、現在、動作確認や品質向上のための実証実験を繰り返しています。

このほか、水産業向けの自動化・省力化機械の受託開発も行っており、水産業界の人手不足の問題を、当社のアイデア・技術力で解消できるよう取り組んでいます。



当社の技術で『1次産業に追い風を。』

私は北海道釧路市出身で、地元には水産業に従事する知人が多くいます。もともとは異分野におけるモノづくりの研究開発を行っていましたが、水産業従事者から“作業を自動化し、負担を減らしたい”などの声を聞くことが多かったので、水産業の自動化・省力化のための機械装置を開発したいと考えるようになりました。

最初に開発したものが「ロボット漁船」の前身となる「ロボセン」です。養殖漁業では、豪雨等により水質環境が急激に変化すると魚が斃死(へいし)してしまう(突然死する)など、大きな損害が発生することがあります。このため、こまめな水質測定・管理が不可欠ですが、多大な労力がかかります。「ロボセン」は、水質環境の自動調査船で、細かなデータ収集が可能となり、養殖魚の斃死や生育不良などの課題を解決することができました。

この経験を通じ、“水産業界をサポートしたい”という想いが一層強くなり、「ロボット漁船」の開発を始めました。一次産業従事者の減少は大きな社会問題となっていますが、解決の一助となれるよう、これからも研究・開発にチャレンジしていきます。

実験用の「ロボット漁船」の模型(2mサイズ)です。
 (※実際は7mサイズです。)



「ロボセン」を応用し、360度航行可能なプロペラを作りました!

～スタートアップ創出促進保証を利用して～

創業資金の借入を検討している際、金融機関から、保証人が不要のスタートアップ創出促進保証の提案を受け、経営者保証なしでも創業資金が調達可能であることを知りました。

当社のように、創業期の企業は、信用力がまだ乏しく、経営者保証が必要となることも多いと思いますが、本保証は経営者保証に対する不安を払拭してくれるので、利用をおすすめします。